

第207期

(中間期)

平成26年4月1日→平成26年9月30日

株主通信

株主の皆様へ



取締役社長 藤田 晴哉

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第207期第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から同年9月30日まで)の概況につきましてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、公共投資は堅調に推移し、設備投資も企業収益の改善を背景に増加傾向となるなど、景気は総じて緩やかな回復基調が続きましたが、個人消費や住宅投資に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあり、期後半からは景気の先行きに不透明感も漂いました。

このような環境下にあって当社グループは、2年目を迎えた中期経営計画「Future '15」の達成に向け、その基本方針である「海外戦略の充実」のもと、引き続き成長分野・新規市場の開拓と深耕、生産・販売拠点の拡充と再構築、新商品・新技術の開発等に注力しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は815億円(前年同期比2.3%増)、営業利益は8億9千万円(同26.4%増)、経常利益は14億6千万円(同12.9%増)、四半期純利益は2億7千万円(同11.9%増)となりました。

なお、当事業年度の間配当につきましては、前事業年度と同様見送らせていただくことといたしました。

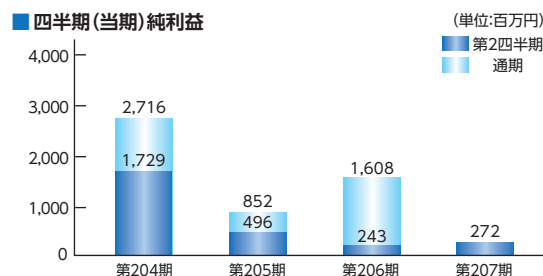
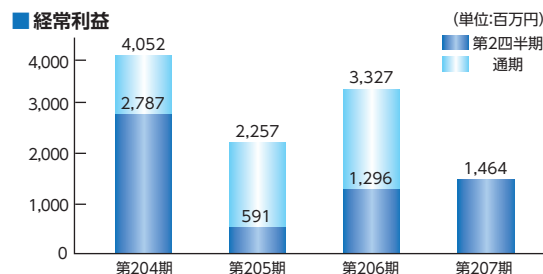
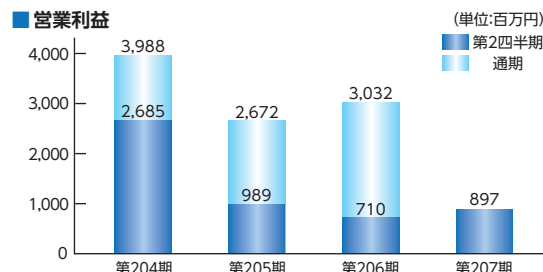
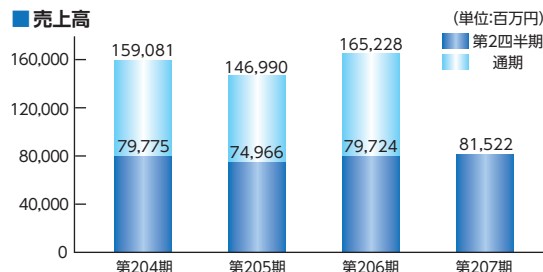
今後のわが国の経済情勢につきましては、政府の経済対策の効果が引き続き期待されるものの、消費税率引き上げにより低下した消費マインドの回復の遅れや、世界経済の動向にも不透明感があるなど、景気の先行きは予断を許さないものと思われまます。

このような経営環境のもと、当社グループは企業価値の向上および株主共同の利益の最大化を目指し、事業展開のさらなるグローバル化をスピーディーに推進するとともに、当社の強みである技術・開発力を生かした商品・サービスの開発・提供、新事業分野の開拓や新規事業の育成・拡大に注力することにより、安定的な収益の確保に努め、事業基盤を確固たるものにしてまいります。この一環として、本年7月に木質バイオマス発電事業への進出を決定いたしました。

また、当社グループは、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの方々に支持されるよう、法令遵守や環境への配慮など企業の社会的責任を果たしていくとともに、新しい価値の創造を通じて生活文化の向上に貢献し、グループとしての企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年11月



当社グループの事業概況

繊維事業

綿、合繊、羊毛その他素材の繊維製品（糸、織物、編物および二次製品）、不織布の製造・販売、補強ネットの製造・販売および綿、合繊織編物の染色整理加工

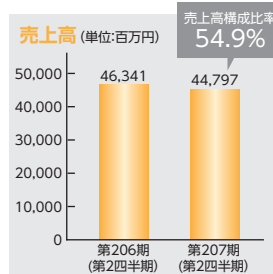


原糸分野は、国内外の連携によるグローバルな生産・販売により堅調に推移し、ユニフォーム分野も、公共事業の増加に伴い需要が回復傾向となるなど業績が改善しました。また、繊維資材分野は、フィルター向け不織布などが順調でした。

一方、カジュアル分野は、円安による輸入コストの増加などからきびしい状況が続きました。

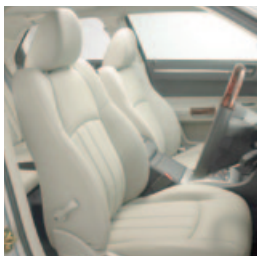
海外子会社におきましては、ブラジルの景気が減速傾向にあり、また東南アジアでも受注の低迷や人件費などのコストアップにより、一般的に低調に推移しました。

この結果、売上高は447億円（前年同期比3.3%減）、営業利益は3億7千万円（同4.1%減）となりました。



化成品事業

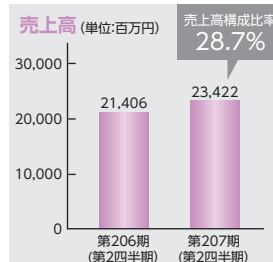
ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品および高性能エンブラ製品の製造・加工・販売



自動車内装材向け軟質ウレタンフォームは、国内における自動車の生産・販売が減少傾向にあるなか、中国における日本車販売台数の回復により堅調に推移しました。

機能フィルム分野は、自動車向けおよび文具向け製品などが堅調に推移しましたが、住宅建材分野では、新設住宅着工戸数の減少などにより低調でした。

この結果、売上高は234億円（前年同期比9.4%増）、営業損失は7千万円（前年同期は営業損失1億円）となりました。



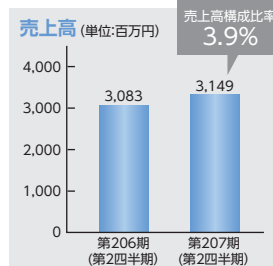
不動産活用事業

不動産の賃貸およびホテル、自動車教習所等の経営



不動産活用事業は、賃貸事業の推進に注力した結果、売上高は31億円（前年同期比2.1%増）、営業利益は15億8千万円（同3.3%増）となりました。

なお、愛媛県松山市の社有地につきましては、本年5月から大規模太陽光発電所（メガソーラー）用地として賃貸を開始しました。



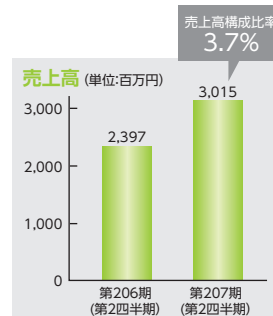
工作機械事業

工作機械、産業機械の製造・販売



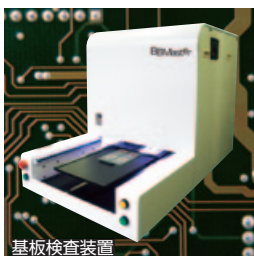
主力の横中ぐりフライス盤は、国内販売は堅調に推移しました。また、海外向けも中国や韓国を中心にアジアが順調でした。

この結果、売上高は30億円（前年同期比25.8%増）、営業利益は1億6千万円（同115.0%増）となりました。



エレクトロニクス事業

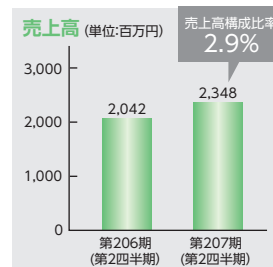
色彩管理、生産管理、CAD等に関する情報システム機器および検査・計測システムの製造・販売・保守



基板検査装置

基板検査装置や半導体洗浄関連装置は堅調に推移しましたが、フィルムや飲料容器の検査装置や自動計量装置は低調でした。

この結果、売上高は23億円（前年同期比15.0%増）、営業損失は6千万円（前年同期は営業利益6百万円）となりました。



その他の事業

環境・リサイクル関連の各種プラント、設備および機器の設計・製作・施工・販売、バイオ関連製品、真空凍結乾燥食品の製造・販売ほか

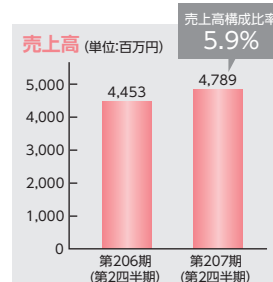


エンジニアリング事業は、全般的に低調に推移しました。

バイオメディカル事業は、海外向けの核酸自動分離装置は堅調に推移しましたが、細胞製品は低調でした。

食品事業は、スープ市場向け、製菓向けおよび健康食品向け製品が好調に推移し、即席めん具材も堅調でした。

この結果、その他の事業の売上高は47億円（前年同期比7.6%増）、営業損失は1億4千万円（前年同期は営業損失1億7千万円）となりました。



連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成26年9月30日)	科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産	89,497	92,195	流動負債	61,986	64,235
固定資産	95,431	96,434	固定負債	33,380	35,274
有形固定資産	55,292	54,106	負債合計	95,366	99,510
無形固定資産	1,424	1,276	純資産の部		
投資その他の資産	38,714	41,051	株主資本	85,920	83,752
資産合計	184,929	188,630	その他の包括利益累計額	36	1,844
			少数株主持分	3,605	3,522
			純資産合計	89,562	89,119
			負債純資産合計	184,929	188,630

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日～ 平成25年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日～ 平成26年9月30日)
売上高	79,724	81,522
売上原価	67,894	69,741
売上総利益	11,829	11,780
販売費及び一般管理費	11,119	10,883
営業利益	710	897
営業外収益	1,293	988
営業外費用	706	421
経常利益	1,296	1,464
特別利益	—	62
特別損失	449	649
税金等調整前四半期純利益	846	877
法人税等	624	564
少数株主損益調整前四半期純利益	222	312
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△20	40
四半期純利益	243	272

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日～ 平成25年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日～ 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,680	5,483
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,678	△1,704
財務活動によるキャッシュ・フロー	△448	△1,371
現金及び現金同等物に係る換算差額	253	△22
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,806	2,385
現金及び現金同等物の期首残高	12,815	15,483
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,622	17,869

トピックス

当社

日本酒由来の保湿成分配合素材 “ANYTIME(エニータイム)～潤布(うるめの)～”を開発、販売開始

繊維事業部

繊維事業部は、清酒白鹿の醸造元・辰馬^{たつま}本家酒造(株)と化粧品などを開発・販売している(株)ノエビアと共同で、辰馬本家酒造(株)が発見したαGG[®]を活用した保湿性の高い繊維素材“ANYTIME～潤布～”を開発し、本年6月から販売を開始しました。

αGG[®]は、日本酒300mlにわずかに約1gしか含まれていない希少な天然の糖分で、肌に浸透しやすく、優れた



“ANYTIME～潤布～”

保湿効果、肌にハリを与える機能をはじめ、肌がコラーゲン、ヒアルロン酸を作る働きをサポートする機能があります。

当社は、このなかでも保湿効果に着目し、辰馬本家酒造(株)と共同してαGG[®]の繊維素材への固定化に取り組み、さらにαGG[®]を化粧品に活用している(株)ノエビアの協力のもと、加工した素材の保湿効果の検証を行った結果、その保湿性に関する効果を確認しました。

“ANYTIME～潤布～”は、当社独自技術である電子線グラフト重合加工技術“EBRIQ”を活用してαGG[®]を繊維素材に固定化しており、高い洗濯耐久性を実現しました。優れた保湿性があり、ソフトで優しい風合いのある繊維素材として、レディース関連の衣料品、肌着などへ展開してまいります。

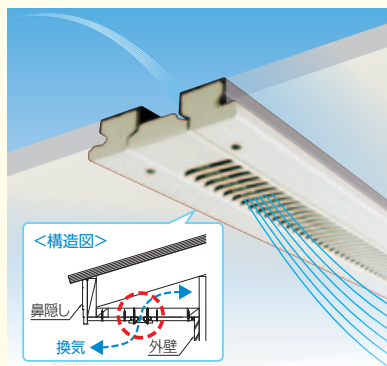
※αGG[®]は辰馬本家酒造(株)の登録商標です。

窯業材と金属のハイブリッド軒裏換気材“APフェイス”タイプAを販売開始

化成品事業部

化成品事業部は、戸建・集合住宅向けに窯業材と金属を複合させ耐火性能を大幅に向上させたハイブリッド軒裏換気材“APフェイス”タイプAの販売を本年9月から開始しました。化成品事業部では、屋根裏換気シリーズの第1弾として都心部狭小地で、屋根の軒先がほとんどないいわゆる「軒ゼロ」デザインの住宅をターゲットに、換気機能付き鼻隠し“APフェイス”タイプZを平成24年7月から販売しています。今回、同シリーズの第2弾として軒先が比較的出しやすく軒天井が付けられる住宅向けに“APフェイス”タイプAを開発しラインアップに追加しました。これにより、屋根裏換気が要求される戸建・集合住宅のさまざまな軒の仕様に対応でき、さらに「準耐火構造45分(軒裏)」も取得し、都心部など防火構造指定地域でも使用することが可能です。取り付けは、下地加工

などが不要で、本体部分の取り付けだけで済むため施工手順もシンプルで省施工につながります。



※軒裏換気材
住宅の屋根裏にこもった熱気や湿気を排出するための換気口を有する部材で、軒天井に取り付ける

※鼻隠し
軒先に伸びた垂木の先端部を隠し、意匠性を持たせる横板

※準耐火構造45分(軒裏)
火災による加熱が45分間加えられた場合に、構造耐力上支障のある変形や溶融、破壊その他の損傷を生じない軒裏構造(国土交通大臣認定)

■準耐火構造45分(軒裏)：
認定番号QF045RS-0237

“APフェイス”タイプA

木質バイオマス発電事業への進出を決定

エンジニアリング部

エンジニアリング部は、再生可能エネルギー固定価格買取制度 (FIT) を活用して、間伐材などを燃料とする木質バイオマス発電事業に進出することを決定しました。

エンジニアリング部が長年培った流動層焼却技術を発展させた「流動層ボイラー」と蒸気タービンを組み合わせたバイオマス発電所を当社徳島工場敷地内にある遊休地に建設し、発電・売電事業を行います。年間発電量は、4,000万kWhで、これは一般家庭1万1,000世帯の年間使用電力量に相当します。木質バイオマス発電は、現在、社会問題にもなっている電力不足の解消に寄与するとともに、化石燃料による発電に比べ環境負荷を低減させ、また、森林に放置されている間伐材などを有効活用することにより、森林環境の保護、林業の活性化にも貢献できます。

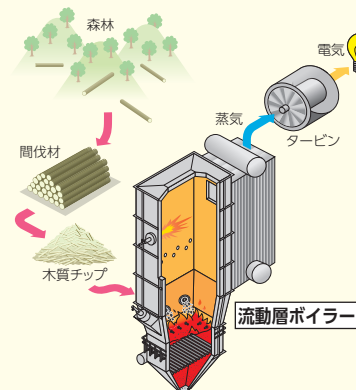
なお、当社では、この他にも、三重県津市や愛媛県松山市の社有地を大規模太陽光発電所 (メガソーラー) 用地として賃貸

するなど、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

*流動層ボイラー

流動層ボイラーは、自社開発の流動層焼却装置とボイラーを一体構造としたもので、蒸気タービンと組み合わせることにより、効率的な発電を行うことができます。

クラボウ木質バイオマス発電のシステムイメージ



- クラボウ
徳島バイオマス発電所 (仮称)
の概要
- 事業場所:
徳島工場敷地内 遊休地
(約8,500m²)
 - 発電規模: 6,200kW
 - 年間発電量:
4,000万kWh/年
 - 燃料種別:
木質チップ (間伐材など)
 - 営業運転開始予定:
平成28年4月

蛍光in-vivoイメージングシステム“KURAVIC(クラビック)”-vivoを販売開始

バイオメディカル部

バイオメディカル部は、研究用途で生きたままの実験動物に特殊な試薬を注入し、薬の集積や癌の転移を画像観察できる蛍光in-vivoイメージングシステム“KURAVIC”-vivoを本年6月から販売開始しました。

抗癌剤は、癌細胞だけではなく正常な細胞にも影響をおよぼすことがあり、副作用の心配があります。それを解決するため、投与した薬が体内のどこに運ばれたのか、また、薬が効いたかを調べることを目的として、癌細胞だけに効率よく薬を届け、副作用を抑えようとするさまざまな研究が行われております。“KURAVIC”-vivoは、蛍光色素の撮影システムで、あらかじめ蛍光を発する薬を投与した実験動物を撮影することにより、薬が正常な臓器に蓄積せずに癌部分に届いたかを

調べられます。また、蛍光を発するようにした癌細胞を本システムで撮影すると、癌の大きさや転移も調べられるため、薬の治療効果や癌転移のメカニズムの解明に貢献できます。



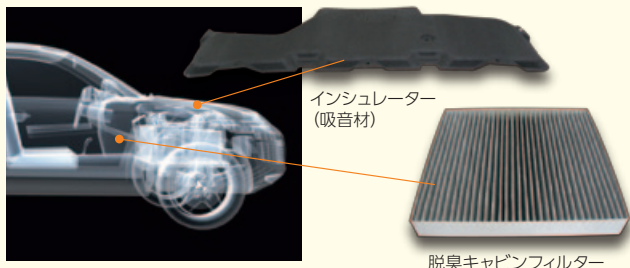
“KURAVIC”-vivo

関係会社

自動車向け機能性不織布シートの採用が拡大

倉敷繊維加工(株)の自動車向け「脱臭キャビンフィルター用不織布シート」と「インシュレーター(吸音材)用不織布シート」の販売が好調です。

脱臭キャビンフィルター用不織布シートは、自動車のエアコン内に取り付け、埃や臭いなどを除去し、車内を快適にするためのシートです。この不織布シートは、活性炭を使用している



倉敷繊維加工(株)

ため、高い脱臭効果があり、また加工のしやすさが評価され、フィルターメーカーに採用されるなど好評を得ています。

インシュレーター(吸音材)用不織布シートは、自動車のエンジンルームと車内を隔てる壁やボンネットの裏面などに貼り付け、エンジンルームからの振動や音を遮断するためのシートです。この不織布シートは、極細繊維の不織布に、撥水性、難燃性などを付与した機能性樹脂を含浸したもので、また、高密度、極細繊維の構造体により、通気性を制限することで、優れた吸音性を発揮します。これらの機能により、大手企業の自動車用インシュレーター製品に採用されるなど、順調に販売量を拡大しています。

今後は、PM2.5除去などの新機能の追加や、お客様とより密着した商品開発を行うことで、さらなる業容拡大を目指します。

「ジフィーものづくりセンター」を開設

フリーズドライ食品製造販売の日本ジフィー食品(株)は、本年8月、京都府宇治市の宇治工場内に、安全で安心できるものづくりと、情報発信を目的とした「ジフィーものづくりセンター」を開設しました。

「ジフィーものづくりセンター」では、工場の原料調達から開発、生産、物流に携わる各部門を集結し、密接な連携による徹底した品質管理と生産管理のもと、より安全でおいしい商品をお客様へ提供してまいります。

また、センター内では展示コーナーも設け、来館者向けに同社の50年以上の歴史や現在取り扱っている商品群を紹介しています。さらに、より詳しい商品説明が行えるよう、調理設備を備えたプレゼンテーションルームも充実しました。

このセンターを活用し、同社のものづくりをお客様に深く理解していただくことで、より一層、お客様の信頼を得られるこ

日本ジフィー食品(株)

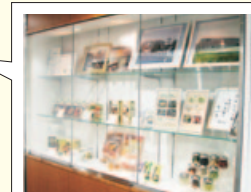
とが期待され、今後は、多くのお客様を当センターへお迎えするよう、積極的に取り組んでまいります。



ジフィーものづくりセンター



プレゼンテーションルーム



展示コーナー

当社の株式に関する事項 (平成26年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 977,011千株
- 発行済株式の総数 246,939千株
- 株主数 21,812名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	11,180	4.84
株式会社みずほ銀行	11,180	4.84
日本生命保険相互会社	9,560	4.14
株式会社中国銀行	7,265	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,747	2.92
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	6,071	2.63
RBC ISB A/C DUB NON RESIDENT-TREATY RATE	5,900	2.55
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,572	1.98
三井住友信託銀行株式会社	4,120	1.78
三井住友海上火災保険株式会社	4,000	1.73

(注) ①当社は、自己株式を16,269千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	倉敷繊維加工(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	(株)倉敷アイビースクエア
	大正紡績(株)
	東名化成(株)
海外	シーダム(株)
	クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	サイアム・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マヌンガル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社14社を含め、当第2四半期の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

当社グループの概要 (平成26年9月30日現在)

当社

- 創立 明治21年3月9日
- 本店 岡山県倉敷市本町7番1号
- 主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	香港営業所	中国香港	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	丸亀工場	香川県丸亀市
		安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
三重工場	三重県津市		

当社の取締役および監査役 (平成26年9月30日現在)

代表取締役 取締役会長	井上 晶 博	取締役 執行役員	本田 勝 英
代表取締役 取締役社長	藤田 晴 哉	取締役 執行役員	稲岡 進
代表取締役 専務執行役員	北川 晴 夫	常勤監査役	上田 睦 治
取締役 執行役員	北 畠 篤	常勤監査役	原田 健
取締役 執行役員	馬場 紀 生	監査役	津田 和 明
取締役 執行役員	佐野 高 司	監査役	宮 二 朗

(注) 監査役 津田和明、宮二郎の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であり、東京証券取引所所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (平成26年9月30日現在)

常務執行役員	藤原 秀 則	執行役員	藤井 裕 詞
執行役員	福村 圭 司	執行役員	中村 潔
執行役員	岡田 治	執行役員	相徳 朗 人
執行役員	八木 克 真	執行役員	川野 憲 志
執行役員	西澤 厚 彦	執行役員	中川 眞 豪

当社グループの従業員の状況

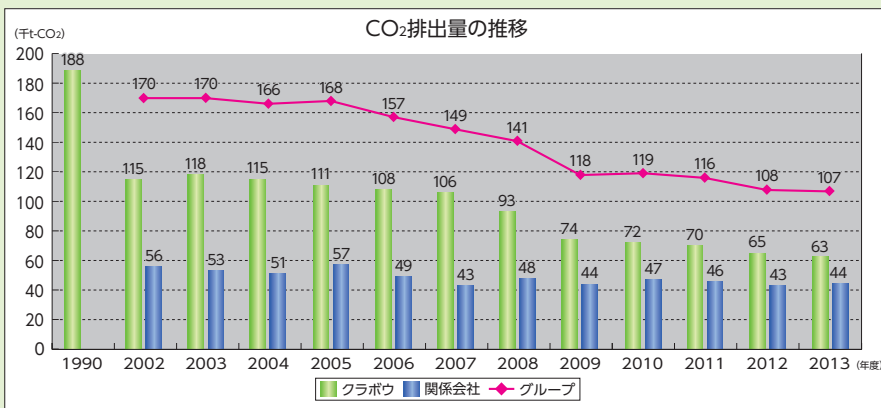
従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,761(△27)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー1,138人がおります。

CSRの取り組み

地球温暖化防止

クラボウは、グループ全体で積極的に地球温暖化ガス(CO₂)排出量の削減活動に取り組んでいます。その結果、CO₂の排出量は年々減少し、クラボウ単体では1990年度比で66%の削減を実現しました。今後も、より一層の排出量削減ができるよう努めてまいります。



環境ボランティア

クラボウグループは、社会貢献活動の一環として積極的に環境美化活動を行っています。安城工場では、毎年、安城市の「五三〇(ゴミゼロ)」運動に協賛して、工場周辺の清掃活動を行い、美しい社会の実現に貢献しています。



※クラボウの環境に対する取り組みについて、詳しくはホームページ <http://www.kurabo.co.jp/report/index.html> をご覧ください。

省エネルギーの推進

日本ジフィー食品(株)は、「ジフィーものづくりセンター」の全室にLED照明を採用し、電力使用量の削減に努めています。また今後は、エアコンの使用量の減少などを目指し、当センターの屋上を緑化する予定です。



ホームページのご案内 >>> <http://www.kurabo.co.jp>

当社ホームページでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」のサイトを開設しております。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
 - (1)定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2)中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法
電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <http://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 1,000株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取扱いいたします。

※平成23年5月3日に倉敷機械株式会社との株式交換に伴う株式の割当により当社株主となられた株主様のうち、証券会社等に口座を開設されていない株主様のご連絡先は、以下のとおりです。

特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-288-324(通話料無料)